

翻訳出版セミナー

『トラフィック・データ——デジタル主権をめぐる米中の攻防』 (アン・コカス著／中嶋聖雄監訳・岡野寿彦訳、日経 BP・日本経済新聞 出版、2024 年)

2024 年 7 月 29 日 (月)

15:00-17:00

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 19 号館 (= 西早稲田ビル)・7 階・711 教室

(アクセス：<https://www.waseda.jp/fire/gsaps/access>)

事前登録は不要です。

お問い合わせ：riapi@list.waseda.jp

プログラム

- 15:00-15:05 開会挨拶
- 15:05-15:35 監訳者解説 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授／自動車・部品産業研究所所長・中嶋聖雄)
- 15:35-16:05 翻訳者解説 (NTT データ経営研究所 グローバルビジネス推進センター・岡野寿彦)
- 16:05-16:15 ディスカッション 1 (早稲田大学名誉教授／自動車・部品産業研究所顧問・小林英夫)
- 16:15-16:25 ディスカッション 2 (NTT データ経営研究所取締役・石塚昭浩)
- 16:25-17:00 総合討論

開催趣旨

データをめぐる米中の攻防を扱った本書『トラフィック・データ』(Aynne Kokas. 2023. *Trafficking Data: How China is Winning the Battle for Digital Sovereignty*. Oxford University Press) は、改善の見通しが立たない米中対立という国際的状況のなかで、米国の学术界・産業界・政界において大きな話題となっている。データ・トラフィックとは、「消費者のデータが商業的に抽出・移転されることによって、ユーザーが自身の個人情報保護を目的のために同意したユーザーの居住国・地域の法的システムの管轄外にある外国政府の国家戦略に利用されてしまうこと」(訳書、p. 31) である。原著者アン・コカス氏が強調するのは、様々なリスクを米国にもたらすデータ・トラフィックは、中国の戦略的行動のみによって発生するのではなく、米国の国内事情と複雑に相互作用しつつ発生するということである。より具体的には、(特に短期的利益を重視する) 企業の自由な営利活動を至上目的とする、米国において伝統的な反規制主義的な価値観と、それに呼応する、中・長期的視点を欠いた米国政府の規制の断片化——すなわち中央政府・地方政府双方における統一的な政策の欠如——が、米国から中国へのデータ流出を加速しているという主張である。本書の焦点は米中間のデータ・トラフィックであるが、本書で扱われている諸領域および関連産業——農業、宇宙空間、ソーシャルメディア、ゲーム、金融、健康・医療、家庭用消費家電、スマートホーム等——は日本においても重要であり、データ・トラフィック問題を正確に把握し、その解決を模索することは、米中双方と緊密な経済関係を持つ日本にとっても喫緊の課題であろう。本セミナーでは、監訳者・翻訳者が本書の概要・意義を解説した後、二名のディスカッションからのコメントにより議論を深める。さらに参加者を含めた総合討論により、日本への示唆や、次世代自動車におけるデータ・トラフィックというような、本書で扱われていない新しいデータ関連領域への応用可能性を模索する。

主催：早稲田大学次世代自動車研究機構・早稲田大学自動車・部品産業研究所

共催：早稲田大学アジア太平洋研究センター (現代中国インディペンデント映画研究部会)

／早稲田大学大学院アジア太平洋研究科／NTT データ経営研究所